

科目名 (英)	臨床医学各論 I Clinical Medicine Part I	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)前期
【授業の学習内容】							
臨床医学各論では今まで学習した解剖学、生理学、臨床医学総論などの現代医学的な基礎的知識を活用し、現代医学に基づいた疾患の概念、原因、症状などを系統別に学習する。臨床医学各論 I では整形外科疾患、脳神経外科、一般外科疾患、麻酔科や呼吸器内科など一般診療科の代表的疾患について学習する。前期は8章の整形外科疾患を中心に13章の疾患(皮膚科、眼科、耳鼻科疾患)を学ぶ。本授業の終了時には各疾患の概要、病態、特徴的な症状、診断、予後などの内容から鑑別のポイントを中心に説明できるようになる。							
【到達目標】							
教科書を中心に学習を進め、4章、8章、11章、12章の疾患を中心に各疾患の概要、病態、特徴的な症状、診断、予後に関連付けて理解する。本授業終了時には各疾患の鑑別のポイントを説明できるようになる。							
<具体的な目標>							
①各疾患の概要、病態、特徴的な症状、診断、予後や鑑別ポイントなどを資料を見ながら関連付けて説明することができる。							
②上記①の内容について、資料を見なくてもキーワードを用いて説明することができる。							

授業計画・内容	
1回目	総論、関節疾患(a~c)について内容を理解し、説明することができる。
2回目	脊椎疾患(a)について内容を理解し、説明することができる。
3回目	脊椎疾患(b~f)について内容を理解し、説明することができる。
4回目	脊椎疾患(g~i)について内容を理解し、説明することができる。
5回目	外傷(c~d)、その他の整形外科疾患(a~d)について内容を理解し、説明することができる。
6回目	関節疾患(d)について内容を理解し、説明することができる。
7回目	関節疾患(d)、骨代謝性疾患・骨腫瘍(a)について内容を理解し、説明することができる。
8回目	骨代謝性疾患・骨腫瘍(a~c)、筋・腱疾患(a)について内容を理解し、説明することができる。
9回目	筋・腱疾患(a~c)、E形態異常(a)について内容を理解し、説明することができる。
10回目	形態異常(b~e)について内容を理解し、説明することができる。
11回目	脊髄損傷(a)について内容を理解し、説明することができる。
12回目	外傷(a~b)について内容を理解し、説明することができる。
13回目	皮膚科疾患(a~d)について内容を理解し、説明することができる。
14回目	眼科疾患(a~f)について内容を理解し、説明することができる。
15回目	耳鼻咽喉科疾患(a~e)について内容を理解し、説明することができる。
準備学習 時間 間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、主に解剖学(筋、骨、関節、神経など)、生理学(神経系など)、臨床医学総論の知識(検査、運動器疾患の徒手検査、神経系疾患の診察など)が必要。 (目標②)学習は復習を中心に行うこと。授業当日と次回の授業の前日に振り返りを行い、理解できていないことを把握し早めに対処すること。 (目標③)学習は教科書を中心に用いること。授業中に説明した内容をメモしておき、相互の繋がりがりや大事なポイントを中心に押さえる。教科書を見る回数を増やすほど大事なポイントが頭に残る。特に覚えることが苦手な人は教科書
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
文 講 生 へ の メ ッ セ ー ジ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:臨床医学各論(医歯薬出版株式会社) 参考書:解剖学(医歯薬出版株式会社) 生理学(医歯薬出版株式会社) 臨床医学総論(医歯薬出版株式会社)	

科目名 (英)	臨床医学各論 I Clinical Medicine Part I	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	(通年科目)後期 曜日・時限
【授業の学習内容】							
臨床医学各論では今まで学習した解剖学、生理学、臨床医学総論などの現代医学的な基礎的知識を活用し、現代医学に基づいた疾患の概念、原因、症状などを系統別に学習する。臨床医学各論 I では整形外科疾患、脳神経外科、一般外科疾患、麻酔科や呼吸器内科など一般診療科の代表的疾患について学習する。後期は11章の神経疾患を中心に、4章の呼吸器疾患、13章の疾患(一般外科、麻酔科)を学ぶ。本授業の終了時には各疾患の概要、病態、特徴的な症状、診断、予後などの内容から鑑別のポイントを中心に説明できるようになる。							
【到達目標】							
教科書を中心に学習を進め、4章、8章、11章、12章の疾患を中心に各疾患の概要、病態、特徴的な症状、診断、予後に関連付けて理解する。本授業終了時には各疾患の鑑別のポイントを説明できるようになる。							
＜具体的な目標＞							
①各疾患の概要、病態、特徴的な症状、診断、予後や鑑別ポイントなどを資料を見ながら関連付けて説明することができる。							
②上記①の内容について、資料を見なくてもキーワードを用いて説明することができる。							

授業計画・内容	
1回目	脳血管疾患(a)について内容を理解し、説明することができる。
2回目	脳血管疾患(a～d)について内容を理解し、説明することができる。
3回目	感染性疾患(a～c)、脳・脊髄腫瘍(a)について内容を理解し、説明することができる。
4回目	脳・脊髄腫瘍(a～d)、基底核変性疾患(a～d)について内容を理解し、説明することができる。
5回目	基底核変性疾患(a～d)について内容を理解し、説明することができる。
6回目	その他の変性疾患(a～c)について内容を理解し、説明することができる。
7回目	痴呆性疾患(a)、筋疾患(a～b)について内容を理解し、説明することができる。
8回目	運動ニューロン疾患(a～b)、末梢神経性疾患(a～d)について内容を理解し、説明することができる。
9回目	神経痛(a～d)、機能的疾患(a～d)について内容を理解し、説明することができる。
10回目	感染性呼吸器疾患(a～d)、閉塞性呼吸器疾患(a)について内容を理解し、説明することができる。
11回目	閉塞性呼吸器疾患(b～c)、拘束性呼吸器疾患(a)、その他の呼吸器疾患(a)について内容を理解し、説明することができる。
12回目	その他の呼吸器疾患(b～c)について内容を理解し、説明することができる。
13回目	一般外科について内容を理解し、説明することができる。
14回目	麻酔科について内容を理解し、説明することができる。
15回目	麻酔科について内容を理解し、説明することができる。
準備学習 時間外学習	(目標①)前提:この授業を受けるには、主に解剖学(筋、骨、関節、神経など)、生理学(神経系など)、臨床医学総論の知識(検査、運動器疾患の徒手検査、神経系疾患の診察など)が必要。 (目標②)学習は復習を中心に行うこと。授業当日と次回の授業の前日に振り返りを行い、理解できていないことを把握し早めに対処すること。 (目標③)学習は教科書を中心に用いること。授業中に説明した内容をメモしておき、相互の繋がりや大事なポイントを中心に押さえる。教科書を見る回数を増やすほど大事なポイントが頭に残る。特に覚えることが苦手な人は教科書を何度も見直すことで大切なポイントが印象に残りやすい。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:臨床医学各論(医歯薬出版株式会社) 参考書:解剖学(医歯薬出版株式会社)、生理学(医歯薬出版株式会社)、臨床医学総論(医歯薬出版株式会社)	